

ホーム > 市民レポーター > 「人を笑顔にしたい！！」秋田からの訪問者：「秋田漫才」の佐川篤さん

「人を笑顔にしたい！！」秋田からの訪問者：「秋田漫才」の佐川篤さん



新川町の酒店、Oさんの実弟佐川さんによる「秋田漫才」が7月6日東部地域センターでご披露されましたので楽しんでできました。

秋田漫才は今から約400年前、秋田へ国替えとなった佐竹藩主について来た水戸庶民の祝い事芸能で、鼓の音を背景にした素朴な言葉のやり取りが特徴なんだそうです。

(市民記者：らいち)



佐川さんの「秋田漫才」は掛け合いはすべて一人で演じます。そのうえ鼓の音も自分で・・・、このとりの熱演で、ソックリな音が出ました。



本場秋田では抱腹絶笑となるようですが、「正調」秋田弁で、しかも一人での掛け合いとあって東久留米では、残念ながらそこまでには至りませんでした。しかし和気あいあいの雰囲気です。



柳亭痴楽の「痴楽・青春日記より」熱演中です。



「アホダラ教」の余興も。見ているだけで笑いが起きます。



30分くらいのご披露でしたが、気持ちがホノノリしてきました。



佐川さんは独学で習得して40年以上にわたり秋田の老人ホームを中心に訪問し、ボランティア活動をしてきました。色々なところからの依頼も多く、そろそろ現役卒業して、益々多方面で・・・と考えています。「人が笑顔になればうれしい！声がかかればどこまでも」と、東久留米でも又来ますよ！とのことでした。(ご本人から写真撮影の許可を得ています)

後日「秋田漫才」と佐川さんについて調べました。なじみの方は少ないと思いますので、ご参考に記します。

秋田万歳は、秋田地方に伝わる祝福芸能の一種でかつては、お正月に各家庭をまわって演じられました。今は、お正月でなくても演じられますが、町まわりをする人はいなくなりました。更に伝承者も少なくなりました。佐川 篤さんは少なくなった伝承者のひとりです。

万歳は、ふつう「太夫」と「才蔵」のふたりで演じます。「太夫」は、紋付、袴に松竹鶴が背中に大きく染め抜かれた上衣、頭に侍烏帽子を付けます。「才蔵」は、紋付、袴に頭巾を冠り、鼓を持ち囃子舞には面も使います。正式の万歳では、太夫が扇を広げて立ち、才蔵は鼓を脇にして座して囃します。

反対に、太夫が鼓を打ち、才蔵が舞ったり囃したりする「囃子舞」、「才蔵囃子」というものもあります。

また太夫の唱える正式の万歳として、家建万歳、経門揃万歳、神力万歳、大峯万歳(山伏万歳)、御国万歳、双六万歳(道中双六万歳)、扇万歳、お江戸万歳、本願寺万歳、吉原万歳、桜万歳、御門開き万歳の十二番があります。

佐川さんの演じるのは、このうち「御国万歳」です。

また、佐川さんは太夫と才蔵をひとりで演じるのが特徴で、衣装は、紋付、袴に頭巾を冠ります。鼓は使わず、鼓の代わりに自身の頬をたたいて囃します。頬をたたいて、鼓のような音を出すのは結構難しいのですが、佐川さんはきれいな音を出します。